

- 管 内 留萌管内
- 分 類 生活安全 交通安全 災害安全
- 教育課程 教科（ 科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- 校 種 小学校（低）小学校（中）小学校（高）中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 警察や町の交通安全協会と連携した交通安全教室等
- 各クラスから選出された生徒で構成する「交通安全委員会」が主体となった取組

## 取組の実際

ねらい

- 交通安全標語の作成や交通安全教室等を通じて、生徒自らが交通ルールの正しい実践を習慣付けるとともに、地域の交通安全の啓発を行う。

内 容

### 1 交通安全標語作成の取組

- 全校生徒による交通安全標語の作成
  - ・全校生徒が必ず1作品以上の交通安全標語を作成した。
  - ・交通安全委員が標語を取りまとめて審査を行い、最優秀賞、優秀賞の作品を決定した。
- 交通安全標語を国道に掲示
  - ・交通安全委員が最優秀作品と優秀作品を書いた看板を作成した。
  - ・町民に交通安全を呼びかけるために国道に看板を設置した。



生徒による国道への看板の設置

- 交通安全標語  
 最優秀作品 「あせらない 心の中にも 信号機」  
 優秀作品 「まあいいか 心のアクセル踏まないで」

### 2 交通安全委員会と関係機関が連携した取組

- 交通安全教室の実施
  - ・警察署員による講演及び自転車事故の実演を行った。
  - ・自転車事故防止の啓発ビデオを視聴した。
  - ・生徒代表による交通安全協会会長への決意表明及び交通安全宣言を行った。

「私たちは交通ルールを再確認し、これからも交通安全に努め、無事故を目指すことを誓います。」

- 交通安全街頭啓発活動
  - ・警察や交通安全協会、交通安全推進協議会と連携した交通安全街頭啓発活動を実施した。
  - ・ドライバーに交通安全を呼び掛けるとともに、学校で収穫した野菜を配布するなど、学校の教育活動を普及啓発する取組を工夫した。



「このあとも交通安全を！」と呼びかけ

成果と課題

- 「交通安全委員会」が主体となった交通安全標語の作成や交通安全教室の実施を通じて、生徒自らが考え実践する交通安全指導を実践することができた。
- 生徒の交通安全に関する意識が形骸化しないように、講話の内容や実施方法について毎年、工夫・改善を図る必要がある。